

参考資料（用語解説）

【A - Z】

B E M S

Building and Energy Management System の略称で、業務用ビルや工場、地域冷暖房といったエネルギー設備全体の省エネ監視・省エネ制御を自動化・一元化するシステム。

H E M S

Home Energy Management System の略称で、IT（情報技術）の活用により家庭におけるエネルギー消費機器を自動制御し、省エネルギーを図る家庭用エネルギーマネジメントシステム。

I S O 1 4 0 0 1

ISO 14000 シリーズは、組織（企業、各種団体など）の活動が環境に及ぼす影響を最小限に食い止めることを目的に定められた環境に関する国際的な標準規格である。ISO 14001 は、環境マネジメントシステムの仕様を定めた規格であり、ISO（国際標準化機構）規格に沿った環境マネジメントシステムを構築する際に守らなければならない事項が盛り込まれている。

L E D 照明

LED（Light Emitting Diode）とは、電気を流すと発光する半導体の一種である。1990年代に青色発光ダイオードが開発されて以降は、LEDによる白色光照明の実用可能性が高まり、現在では、局所照明を中心とした市販製品が登場している。従来の蛍光灯や白熱電球などに比べると電力消費が小さく長寿命である。

【あ行】

ウォームビズ

環境省が「秋冬のクールビズ」として提唱したもので、暖房の使用による温室効果ガスの排出を抑えるため、室温を20℃に設定することを呼びかけ、この室温でも快適に過ごすための服装として「働きやすく暖かく格好良い」ビジネススタイルとして位置づけたものである。

打ち水（うちみず）

庭や道路など屋外に水を撒くことであり、夏季に、気化熱による涼気をとるために行われることが多い。打ち水には場を清める神道的な意味合いがあり、玄関先などへの打ち水は「来客への心遣い」の一つとして、日本に昔からある風習の一つでもある。近年は、都市部のヒートアイランド対策として実施されているほか、政府も地球温暖化対策キャンペーンの一環として打ち水を奨励している。

エコアクション21

環境マネジメントシステム、環境パフォーマンス評価及び環境報告をひとつに統合した環境配慮のツールであり、中小企業等においても容易に環境配慮の取組を進めることができるよう環境省が考案した環境マネジメントの認証登録制度。

エコカー

低公害車の通称であり、大気汚染物質（窒素酸化物や一酸化炭素、二酸化炭素など）の排出が少なく、環境への負荷が少ない自動車のことである。低排出ガス車、ハイブリッド自動車のほか、燃料に代替エネルギーを用いたメタノール自動車や天然ガス自動車、モーターを動力とする電気自動車などが含まれる。低公害車の認定を受けた自動車は、税制面で優遇される等の特典を持つ。

エコドライブ

ゆっくり発進したり、無駄なアイドリングを止めたりすることなど、環境に配慮して自動車を運転すること。

温室効果ガス

大気を構成する気体であって、赤外線を吸収し再放出する気体。京都議定書では、二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化硫黄の6物質が温室効果ガスとして削減対象となっている。

【か行】

カーシェアリング

一台の自動車を複数人が共同で利用する形態のこと。

化石燃料

大昔に動植物などの死骸が地中に堆積し、長い年月をかけて地圧・地熱などにより変成されてできた有機物の化石のうち、人間の経済活動で燃料として用いられるものの総称であり、石油、石炭、天然ガスなどをいう。

簡易電力表示器

コンセントにつなぐだけの簡単設置で使用電力量や二酸化炭素排出量などが測れる機器。

環境マネジメントシステム

組織や事業者が、その運営や経営の中で自主的に環境保全に関する取り組みを進めるにあたり、環境に関する方針や目標を自ら設定し、これらの達成に向けて取り組んでいくことを「環境管理」又は「環境マネジメント」といい、このための工場や事業所内の体制・手続き等の仕組みを「環境マネジメントシステム」という。

気候変動に関する国際連合枠組条約

地球温暖化防止に関する取り組みを国際的に強調して行っていくため 1992 年 5 月に採択され、1994 年 3 月に発効した。気候系に対して危険な人為的影響を及ぼすこととならない水準において、大気中の温室効果ガス濃度を安定化することを目的とし、締結国に温室効果ガスの排出・吸収目録の作成、地球温暖化対策のための国家計画の策定とその実施等の各種の義務を課している。

京都議定書

1997 年 12 月に京都で開催された気候変動枠組条約第 3 回締結国会議（COP3）において採択された議定書であり、2005 年に発行。先進各国の温室効果ガスの排出量について法的拘束力のある数値目標が決定されるとともに、排出量取引、共同実施、クリーン開発メカニズムなどの新たな仕組みが合意された。

クリーンエネルギー自動車

石油代替エネルギーの利用やガソリンの消費量を削減することで排気ガスを全く排出しない、または排出してもその量が少ない車のこと。電気自動車、ハイブリッド自動車、天然ガス自動車等が挙げられる。

グリーン購入

製品やサービスを購入する際に、その必要性を十分に考慮し、購入が必要な場合には、出来る限り環境への負荷が少ないものを優先的に購入すること。

グリーン電力証書

自然エネルギーを普及させるために、日本自然エネルギー株式会社が発行する証書。自然エネルギー電力の使用を希望した場合に、代行して発電会社に依頼し、自然エネルギーで発電した証として発行する。

クールビズ

環境省が中心となって夏季に行う衣類の軽装化キャンペーン、もしくは、そのキャンペーンで推奨する服装のこと。冷房の使用による温室効果ガスの排出を抑えるため、室温を 28℃ に設定することを呼びかけ、この室温でも涼しく効率的に働けるような軽装全般を推奨している。

高効率給湯器

従来方式に比べてエネルギーの消費効率に優れた給湯器のことである。従来の瞬間型ガス給湯器に比べると設備費は高いが、二酸化炭素排出削減量やランニングコストの面で優れている。潜熱回収型・ガスエンジン型・CO₂冷媒ヒートポンプ型などがある。

コージェネレーション

発電機で電気を作る際に同時に発生する熱を温水や蒸気として同時に利用するシステム。病院・ホテルやデパートなど電気や熱を多く使っている施設や停電などの時のために自家発電設備を備えている大規模な施設の乗用の電源と熱源として適している。

【さ行】

再生可能エネルギー

有限で枯渇の危険性を有する石油・石炭などの化石燃料や原子力と対比して、自然環境の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーの総称。具体的には、太陽光・太陽熱、風力、水力、地熱、波力、バイオマスなどの利用が挙げられる。自然エネルギーは再生可能エネルギーとほぼ同義で用いられているが、新エネルギーについては、『新エネルギーの利用等の促進に関する特別措置法』で定められたエネルギー源を指しており、再生可能エネルギーの中から10分類が指定されている。

省エネ家計簿

省エネ家計簿は、金沢市が作成した市民向けの意識啓発ツールである。電気・燃料などの使用量やごみの排出量を自己チェックすることにより、目に見えない二酸化炭素を量として把握し、環境に与える負荷がどの程度になるのか実感してもらうことを目的としている。一般記入用省エネ家計簿のほか、二酸化炭素排出量などを自動計算できるパソコン版省エネ家計簿がある。また、家庭ごとの省エネ評価やアドバイスを行う省エネ家計簿通信講座を実施している。

省エネルギー住宅

住宅の断熱性と気密性を高めることで室内と外との熱の出入りを少なく抑え、冷暖房機器によるエネルギー消費量を減らすなど省エネに配慮した住宅を広く指し、少ないエネルギー消費量で冬はあたたかく、夏は涼しく快適に暮らせる住まい。

スマートグリッド

「スマート（賢い）」な「グリッド（電力網）」のことであり、電気機器などに関する情報の通信や制御を行い、電力の利用を最適化しようとするもので、電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、最適化できる送電網。

3R

Reduce（リデュース：発生抑制）、Reuse（リユース：再使用）、Recycle（リサイクル：再資源化）の3つの頭文字をとった言葉であり、環境と経済が両立した循環型社会を形成するための3つの取り組み。

【た行】

ダンボールコンポスト

家庭から出る生ごみをピートモスやくん炭などと一緒に段ボール箱に入れ、その中で減量・堆肥化を行うものである。容器として使用する段ボール箱は、安価かつ入手が容易である点と、堆肥化に必要とされる水分調整機能を持つ点で、経済性や機能性に優れている。

地産地消

地産地消とは、地域生産地域消費（ちいきせいさん・ちいきしょうひ）の略語で、地域で生産された様々な生産物や資源（主に農産物や水産物）をその地域で消費することである。食や環境に関する安全・安心の点、食育や地域活性化につながる点、国の食糧自給率向上につながる点などの効果が期待されている。

チャレンジ 25

二酸化炭素排出削減に向けた具体的な行動を提案し、その実践を広く呼びかける国民運動。これまで地球温暖化防止のための国民運動であった「チーム・マイナス6%」から、より二酸化炭素排出削減に向けた運動へと生まれ変わり展開するものであり、オフィスや家庭などにおいて実践できる具体的な行動を「6つのチャレンジ」として提案している。

天然ガス自動車

家庭に供給されている都市ガスの原料でもある天然ガスを燃料として走る自動車。天然ガスを気体のまま 20MPa まで圧縮して高圧ガス容器に貯蔵し、燃料とする圧縮天然ガス自動車（CNG）が世界的に最も普及している。排出ガスの浄化が容易で黒煙も出ず、窒素酸化物もガソリンエンジン並に少なくなり、大気環境の改善に大きく貢献できる。

【な行】

二次交通

複数の交通機関等を使用する場合の、2種類目の交通機関のことを差す。主には、鉄道駅から路線バスや自転車などを使って、学校や観光地などへ赴く交通手段のこと。

燃料電池

異種物質の酸化還元反応により直接電気を得る電池の一種。プラス極とマイナス極に供給された酸化還元反応を起こす物質（多くは水素と酸素）が、各々の極で反応することで起電力が生じるもの。日本では、90年代に入り、イオン交換膜を電解質に使った固体高分子形の燃料電池が開発され、自動車、家庭用コージェネレーション、モバイル機器用などの、個人向けの燃料電池として注目を集めている。

【は行】

バイオマス

植物・動物の細胞組織、動物の排泄物など生物由来の有機物のこと。薪、木炭、家畜の糞などが挙げられ、これらをエネルギーとして利用する場合は実質的な二酸化炭素排出量を0とみなすことができ、カーボンニュートラルなエネルギーとして注目されている。

バイオディーゼル燃料

糖質を発酵させて製造するバイオエタノールと植物油とメタノールを化学反応させてできたメチルエステルをディーゼルエンジンに利用するもの。

ハイブリッド自動車

複数の動力源を組み合わせ、それぞれの利点を活かして駆動することで低燃費と低排出を実現する自動車。現在市販されている多くは、ガソリンと電気や油圧等のモーターの組み合わせとなっており、乗用車クラスでの開発・市場投入が進んでいる。低燃費と低排出ガスの実現を図るという考え方に基づいて開発が進められている。

パーク・アンド・ライド

温暖化対策や渋滞対策を目的として、自動車を駅周辺の駐車場に停めて（Park）、電車やバスに乗り換えてもらう（Ride）取り組み。

ヒートアイランド

都市域において人工物の増加、地表面のコンクリートやアスファルトによる被覆の増加、それに伴う自然的な土地の被覆の減少、さらに冷暖房などの人口排熱の増加により、地表面の熱収支バランスが変化し、都市域の気温が郊外に比べて高くなる現象のこと。

ヒートポンプ

空気や水がもつ熱エネルギーをわずかな力で汲み上げ、使えない熱エネルギーを使える熱エネルギーに品質を向上させて空調や給湯に利用する装置のことである。従来から冷凍冷蔵庫やエアコンなどに広く普及されていたが、家庭向けに自然冷媒ヒートポンプ給湯器が開発され、近年はこの普及が進んでいる。

【ま行】

マイクロ水力発電

出力が 100kW 以下の水力発電設備のこと。規模が小さく構造も比較的簡易であることから、次世代に向けた環境にやさしい持続可能な循環型エネルギーシステムと位置付けられている。

緑のカーテン（グリーンカーテン）

主につる植物を用いて、支柱に絡ませたり外壁やネットに這わせたりして、窓をカーテン状に覆う。夏季の高温時には、太陽光の遮断と断熱や葉面からの蒸散による気化熱を利用して、建築物の温度上昇を抑える効果がある。

木質ペレット

おが屑や木材の端材などを粉碎・圧縮・乾燥させ、錠剤状に成形してストーブやボイラーの固形燃料として使用するもの。

【ら行】

ライトダウンキャンペーン

環境省が毎年 6 月 21 日～7 月 7 日にかけてライトアップ施設等の消灯を呼びかける運動のこと。2003 年より実施。

金沢市低炭素都市づくり行動計画

発行年月 平成 23 年（2011 年）3 月

発 行 金沢市

編 集 金沢市環境局環境政策課

〒920-8577 金沢市広坂 1 丁目 1 番 1 号

TEL 076-220-2304 FAX 076-260-7193